

モデル授業提案の趣旨（どんな授業を目指すのか）

【モデル授業の方向性】

本授業では、遠野市教育委員会研究指定による授業実践交流会（11月5日）においても公開されることから、遠野市教育研究所及び遠野市立遠野西中学校の研究を基にするとともに、学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、「指導と評価の一体化」の実現に向けたパイオニアモデル授業として展開していく。

【モデル授業提案の内容】

<p>ア 指導と評価の一体化 「評価の視点」で児童生徒の学習状況をみとり、適切に評価を行うために、「評価の視点」による学習活動を組み入れる。</p>	<p>イ 問題解決的な学習 児童生徒がこれから生きる上で出会う様々な場面で主体的に解決できることにつながる問題解決的な学習を工夫する。</p>	<p>ウ ICT活用 ロイロノートを活用し、指導と評価の充実に役立てる。</p>
--	---	--

1 学年 道徳科 指導計画

<p>主題名：心の弱さに負けないためには （内容項目：自主、自律、自由と責任） 教材名：釣りざおの思い出</p>	<p>日 時</p>	<p>令和3年10月27日（水）3時間目</p>
	<p>対象学級</p>	<p>遠野西中 1年B組（18名）</p>
	<p>授業者</p>	<p>教諭 伊藤光喜</p>

1 ねらい

主人公が、自分の意思で決定した自覚が足りないため、「五時半までに帰る」という母との約束を破り、（最後の一匹を釣ったら帰ろう。）という誘惑に引きずられる姿を通して、日常のどのような小さな行為においても、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。

2 主題設定の理由

ねらいとする道徳的価値	児童・生徒の実態	教材の特質と活用方法
<p>内容項目「自主、自律・自由と責任」は「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」とある。</p> <p>小学校における指導内容を更に発展させ、中学校では、日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、それに責任をもたなければならないことを実感させることが必要である。また、そうした経験を通すことで、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止められるようになっていくことが大切である。</p>	<p>（略）</p>	<p>本教材は、自分の意思で決定した自覚が足りないため、自分で決めた「五時半までに帰る」という母との約束を破ってしまうという道徳的な問題が含まれている。</p> <p>そこで、本時は、心の弱さに負けず、自ら判断して望ましい行動をとるためにはどうすればよいかということについて問題解決的な学習を行う。</p> <p>問題場面における主人公の言動について判断する学習場面を設け、自分の言動に責任をもつことについて深く考えさせたい。</p>

3 「モデル授業提案の内容」による授業改善

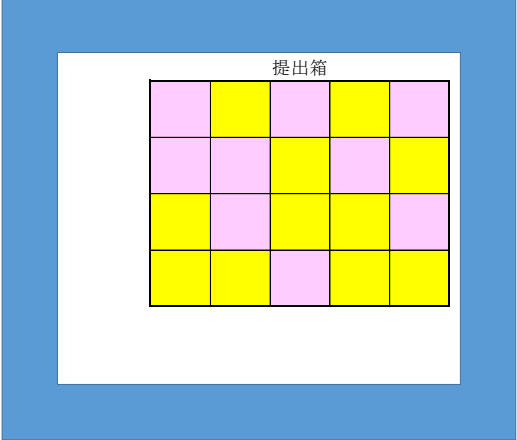
（どのように学ぶか）

ア 指導と評価の一体化	イ 問題解決的な学習	ウ ICT活用
<p>道徳的価値について多面的・多角的に捉えていくために、問題場面における主人公の言動について判断する学習場面を設け、多面的な見方へと発展している姿をみとっていききたい。</p> <p>道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていくために、心の弱さに負けないために大切なことを考える学習場面を設け、自分自身との関わりの中で深めている姿をみとっていききたい。</p>	<p>生徒の学習意欲を喚起するために、日常生活での問題を道徳上の問題として把握し、学習テーマを設定する。</p> <p>生徒一人一人が道徳上の課題に対する答えを導き出すために、自分の気持ちや考えを発表するだけでなく、自己を見つめ直してじっくり書く時間を確保する。</p>	<p>一面的な見方から多面的な見方へと発展させるため、主人公の判断について生徒が「自分の判断とその理由」を考える場面で、ロイロノートを活用して答えを提出させる。</p>

6 本時の展開		(本時をどうデザインするか)	
	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点◆評価の視点
導入 10分	<p>1 自分の生活をふり返り、問題意識をもつ。 (1) 自分で決めた計画など、それを「実行できなかった」という経験があるか確認する。</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習テーマ 心の弱さに負けないためには</p> </div> <p>3 教材を読み、あらすじを確認する。</p>	<p>・ある。自分で決めた事でしょうと親に叱られるし、自分自身でも後悔した。</p>	<p>・生徒の学習意欲を喚起するために、日常生活での問題を道徳上の問題として把握し、学習テーマを設定する。</p>
展開 25分	<p>4 問題場面における主人公の言動について判断する。</p> <p>(1) (よし、最後の一匹を釣ったら帰ろう。) という主人公の判断をどう思いますか。 <判断とその理由を考える> <判断とその理由を交流する></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主人公に共感させたい時の確認例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢にまで見た、憧れのあのさお」 ・「思いがけないほどの大量」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>考えを深めさせる際の発問例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束した時の様子 ・主人公と母との約束への温度差 </div>	<p>○仕方ない (心の弱さの要素)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前から欲しかった釣りざおで初めて釣りをしたから。 ・思いがけない大漁だったのであと一匹もすぐに釣れると思ったから。 ・約束の時間はもうすでに過ぎていて、急いで帰っても間に合わないから。 <p>○良くない (心の弱さに負けないことの良さ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽とはいえ、自分で決めた時間だから。 ・大量に魚を釣ることよりも、見舞いに行くために、約束した時間を守るの方が大切だから。 	<p>◆一面的な見方から多面的な見方へと発展させているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(よし、最後の一匹を釣ったら帰ろう。) という主人公の判断をどう思いますか。」という発問をし、ロイロノートを活用して答えを提出させることで、道徳的価値について、多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ・「心の弱さの要素」を洗い出すとともに「心の弱さに負けないことの良さ」を確認できるようにする。 ・ロイロノート(無記名)で、交流後の考えを提出させる。
終末 15分	<p>5 本時をふり返る。</p> <p>(1) 「心の弱さに負けないためには」今後、どのようなことが大切だろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>心の弱さに負けないためには、自分で約束したということ、自覚することが、大切だと思います。はじめは、ずっと欲しかった釣りざおでの釣りだったので、少し遅れても仕方ないと思っていましたが、やはり、自分で決めた約束には責任があると思うので、これからは自分で決めた約束については、特に意識して、守っていきたいです。</p> </div> <p>(2) 発表・交流をし、学習をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた約束であるという意識、自覚 ・自分の言動に責任を持つ態度 	<p>◆道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が道徳上の課題に対する答えを導き出すために、自己を見つめ直してじっくり考える時間を確保し、ロイロノートで提出する。

7 板書計画等 (学びの可視化をどうデザインするか)

電子黒板



心の弱さに負けないためには

- ・ 自分で決めた時間だから。
- ・ 約束を守ることが大切だから。

良くない

○名

仕方ない

○名

良い

○名

(よし、最後の一匹を釣ったら帰ろう。)

釣りざおの思い出

学習テーマ

心の弱さに負けないためには

C

A

目指す授業像 (本学区では、共通してどんな授業を目指すのか)

【モデル授業提案の内容】

<p>ア 指導と評価の一体化 「評価の視点」で児童生徒の学習状況をみとり、適切に評価を行うために、「評価の視点」による学習活動を組み入れる。</p>	<p>イ 問題解決的な学習 児童生徒がこれから生きる上で出会う様々な場面で主体的に解決できることにつながる問題解決的な学習を工夫する。</p>	<p>ウ ICT活用 ロイロノートを活用し、指導と評価の充実に役立てる。</p>
<p>【協議や助言の内容】</p>	<p>【協議や助言の内容】</p>	<p>【協議や助言の内容】</p>

【本時を終えての成果 (授業者・学習者)】

【授業者所感・今後の実践に向けて】